



眠れぬ  
僕の傍に



rocksan

「あなたが眠るまで傍にいてあげる」  
君はそういうけれど  
いつだって君が先に眠るのだ  
そして僕は毎晩君の寝顔を眺めることになる

とうの昔に壊れた僕を  
その細い体で支えてくれる  
君の安らかな寝顔を見つめるだけで  
癒される気がするのだ  
目覚めてる時には  
傷つけてしまいそうで  
触れる事も躊躇うけど  
今は君の髪をそっと撫でている  
「夢の中の僕は君に優しいか？」  
そう呟いてから君の手に触れると  
軽く握り返してくれる  
それが答えのように

眠れぬ夜は続く  
目覚めた君に  
僕はまた冷たい目を向けるだろう  
それでも君は毎朝変わらずに  
「おはよう」の言葉をくれるから  
僕はまだ生きていられるのだろう